

# IAESTE internship in Germany

国際開発工学科 阿部研究室所属

氏名 片谷鉄平

## 1. はじめに

私は今回、IAESTE というインターンシップ派遣団体を通じて、2010/09/01 から 2010/11/24 までドイツの Kassel という街の Kassel 大学でインターンシップを行いました。以前から海外に留学したいと思っていたのですが、留学をするためにはお金が必要だったり、大学を休まなければならなかったりと、実際に留学をすることは私にとってかなり非現実的な事でした。しかしながら、国際開発工学科に所属していると、海外留学や海外インターンシップなどの情報を耳にすることが多く、今回の私のような IAESTE に参加する場合は留年をしないように様々なサポートがあります。これらのことから、今回の IAESTE は私にとって、とても大きなチャンスだと思い参加することになりました。

## 2. Kassel について

Kassel について紹介したいと思います。Kassel はドイツのヘッセン州にある都市で、ドイツのほぼ中央に位置しており、人口約 20 万人のヘッセン州最大の都市です。日本に比べると、かなり気温が低く、基本的に日本の気温 - 10 が Kassel や北寄りのドイツの気温になっていました。

Kassel はグリム兄弟が住んでいた(生まれたではない)街として有名で、毎年行われるクリスマスマーケットでは、グリム童話の一つをモチーフに、毎年違った趣向があるようです。

ドイツは物価がとても安く、パンなどは日本の半額以下と思ってもよいぐらいでした。肉やピザなどもとても安く、食事に不自由するということはありませんでした。3 カ月という短い期間だったからでしょうか、いろいろなドイツの料理を食べることができたので日本食が恋しくなるということもありませんでした。



図 2 - 1 Kassel の位置



図 2 - 2 おもな公共交通機関であるトラム

### 3. 平日の1日について

平日のタイムスケジュールについて紹介したいと思います。

7:00 起床  
8:00 ホームステイ先から出発  
8:30 研修先へ到着  
8:30~10:00 研修時間  
10:00~10:30 コーヒーブレイク 1  
10:30~12:30 研修時間  
12:30~14:30 昼食およびコーヒーブレイク 2  
14:30~16:00 研修時間  
16:00~16:30 コーヒーブレイク 3  
16:30~19:30 研修時間  
19:30 帰宅  
24:00 就寝

今回のインターンシップでは、私はホームステイをすることになり、研修先から少し離れた場所にある家にホームステイをさせていただきました。ホストファミリーはとてもいい人たちで、とても親切にさせていただきました。

研修先での仕事は、おもに CAD と Java を使用した作業でした。気づいたと思いますが、コーヒーブレイクを1日に3回ほどとりました。この時間は仕事の同僚と日本のことやドイツのことを話すなど、とても良いコミュニケーションの時間でした。私は19:30まで仕事をしていましたが、基本的には9:00~18:00が研修の時間で、私が長く仕事をしてきた理由はほかのメンバーが19:30前後まで仕事をしてきたからです。

ドイツの大学にある学食は、政府から援助があるようでとても安くて量があるので、毎日教授や同僚と一緒に学食で昼食をとっていました。学食は150円から300円ほどで、メインディッシュにサイドディッシュを2つ選べる形でした。



図3-1 お世話になった研修先の人たち

## 4. その他

語学に関してはしっかり勉強していても、もっとやっておけばよかったと必ず後悔すると思います。私の場合は基本的な日常会話の勉強ばかりしていたので、日常会話の簡単な受け答えなどしかできず、英語での面白い話や CAD などの専門的な会話になると単語が出てこなかったり、聞き取れない語句が出てきたりなどの場面が少しありました。具体的には、何か買い物をしたり、道を尋ねるなどのことはできるのですが、研修先で経過報告などの際に使う専門用語(私の場合は CAD や Java に関するもの)をあらかじめ調べておかなければ、うまく報告できずに相手にも迷惑をかけてしまったと思います。また、オーストラリアから来ていた IAESTE 研修生がいたのですが、彼女が笑い話をしてもわからない単語が出てくるので、愛想笑いをするようになることもありました。英語が唯一のコミュニケーションとなっていたので、もっともっと英語を勉強しておけばよかったと思っています。TOEIC や TOEFL の勉強だけではなく、日常の会話を英語を考えてみるなどの工夫も必要だと思いました。

ドイツの人たちは英語がとてもうまく話せるので、英語をしっかりと話すことができれば、生活に不自由することはありませんでした。私自身、ドイツ語はあいさつや簡単なフレーズしか喋れません。ドイツ語を勉強しておくことはいいことですが、それ以上にコミュニケーションのツールとして英語を勉強しておくべきだと思います。

週末はほかの IAESTE 研修生たちと旅行に行ったり、一人で旅行にいったりととても充実していました。結局、私は3ヶ月間で9カ国旅行をしていました。本当にいい体験をしたと思っています。



図 4 - 1 , 4 - 2 他の IAESTE 研修生とフランス・パリで

## 5. IAESTE インターンシップに参加してみて

今回 IAESTE インターンシップに参加して得られた経験は本当に貴重なものだと思います。特に語学に関する経験や、海外で一人、何でも自分でやらなければならない環境で過ごした経験は日本には決してできないものだと思います。身近なことでいえば、私がいま所属している阿部研究室では英語のゼミがあるのですが、英語をしゃべることに抵抗がなくなっただけではなく、留学生とコミュニケーションがしっかりととれる、相手の考えていることを理解したいと思う考え方ができてきたと思います。自分から見れば、このようなことはドイツに行く前は考えられなかったことで、ドイツでの経験の貴重さを実感しています。

また、日本では、これから先必ず英語が必要になるといわれていますが、しっかりとした危機感は皆さん感じていないと思います。しかしながら、ヨーロッパでは英語はもちろんのこと、母国語だけではなくフランス語やドイツ語など、2~4カ国話す人が大半を占めており、私が出会った人では1ヶ国語しか話せないという人のほうが少ないくらいでした。大学生の今だからできることはたくさんあると思います。また、大学生の今だけしかできないこともあります。ほかの人にも、このIAESTEインターンシップなど、海外で生活するという体験をしてほしいと強く思っています。私自身これで満足しているわけではありません。近いうちに今度は1年以上また日本を出て、いろいろなことを学びたいと考えています。

(以上)